

#5 人を傷つける破壊的なコメントをする

これは、あなたが自分自身を診断するのに最も難しい悪癖の一つだ。あなたがその罪を犯しているかを評価するために周りの人の話を聞く。

マーシャル・ゴールドスミス

私は、自己診断に少し懐疑的である。ほとんどの人たちは自らの強みや弱みを過大評価する傾向がある。彼らは自分たちが実はあんまり良くないか、「ちょっと」悪いことを本当に不得意だと考えている。彼らが癌と見ているものを、医師は肉離れと診断する。私の願いは、あなたが自分自身に厳しくないが、変革を行っていることだ。しかしながら、もしあなたが人を傷つける破壊的なコメントをする罪があるなら、あなたはこれを止めたいだろう。今すぐに。

破壊的なコメントは、意図があるかないかに関わらずあなたが罵る痛烈で口が悪いコメントである。それは、人をこきおろしたり、人を傷つけたり、自分たちが「優れている」と断言したりすること以外の目的はない。それは、多くの価値を付加するコメントとは異なる。この種のコメントは苦痛以外何も付け加えない。

それらのいくつかはベルを鳴らすか確かめる。「いいタイですね」（薄ら笑い）、「いい動きですね」（誰かがカーペットの上でつまずいた時）。それは鋭い皮肉である。また、同僚の過去の業績へ拡張した批判でもある。あなた以外の全員が忘れていた何かだ（「本当に重要な締め切りを見逃し、全社がほとんど倒産した時のことを覚えているだろうか」）。

人を傷つける破壊的なコメントをすると言えば、もしあなたが誰かに過去 24 時間にした破壊的なコメントを記入することを強く要求しても、彼らは思い出せないだろう。私たちのほとんどは、何も考えず痛烈な発言をする、だから私たちはそれを覚えていない。しかし、その発言を受けた人は覚えている。私が集めたフィードバックは、「破壊的なコメントを避ける」は、私たちがどのように見るかと他の人が私たちをどう見ているかの間に最低の相関がある二つの項目の一つである。言い換えれば、私たちは自分が破壊的なコメントをしているとは思っていないが、私たちを知る人は同意しない。

破壊的なコメントは、陥るのは簡単な癖である、特に習慣的に率直さをマネジメントツールとして頼っている人たちには。問題は、もし人が「それは真実だ」という見せ掛けの下での破壊的なコメントを容認したなら、率直さは武器になりえる。破壊的なコメントをする前に、あなた自身に「それは真実か」ではなく「それは価値があるのか」と尋ねることだ。

私たちは、一日を通して「真実を語ること」をふるいにかけるのに多くの時間を費やしている。「あなたの髪型が好きです」のような罪のないうそ。本当に言いたいことが、それは馬鹿げて見えるという時！ 私たちは、正直と完全な公開の間の違いを知っている。これは基本的な生存本能だ。私たちは上司が時代遅れの人だと考えるかもしれない。しかし、上司や他の誰かにそのことについて言う道徳的、倫理的な義務はない。この生存本能をあなたの同僚、管理職、直属の部下とともに組織全体に広める。あなたはそれが個人的な関係に利益があるのが分かるだろう。

破壊的なコメントを避けるのに役立つ簡単なテストがある。話す前に、自分自身に尋ねてみる。

1. このコメントは私の顧客の役に立つだろうか。
2. このコメントは私の会社の役に立つだろうか。
3. このコメントは私が話している人の役に立つだろうか。
4. このコメントは私が話そうとしている人の役に立つだろうか。

もし、答えが全部ノーなら、正しい戦略はノートということだ。

マーシャル・ゴールドスミス博士は、2011年と2013年にシンカー50より世界の最も影響力のあるマネジメント思想家10名の一人として選ばれた。彼はまた、2011年には世界の最も影響力のあるリーダーシップ思想家に選ばれた。マーシャルは、2011年と2013年のシンカー50のリストで最も高く評価されているエグゼクティブ・コーチであった。著書の「What got You Here Won't Get you There」は、INCマガジンと800CEOリードの両方で、2013年のトップ10ビジネス書として掲載された（7年連続）。マーシャルのエンゲージメントに関する刺激的な新しい研究は、近日発売の「Triggers」（Crown, 2015年）にて発表される。

和訳：秋元祐次郎（株式会社秋元アソシエイツ、<http://www.akimotoassociates.co.jp>）

Translation by Yujiro Akimoto, Akimoto Associates, Inc., Tokyo, Japan